九州還暦軟式野球選手権大会　特別規則　（令和元年度　第19回大会に適用）

1. 試合はトーナメント戦で、全試合7回ゲームとする。試合の時間制限は設けないが、第一日は１会場で６試合を行なうため、試合のスピードアップに心がけること。
2. 準決勝までは得点差によるコールドゲームは5回以降7点差とする。但し決勝戦は適用しない。
3. 準決勝までは7回終了時同点の場合は延長戦は行わず、最終守備位置18人による抽選で決する。決勝戦は一死満塁の任意打順(大会特別規則)によるタイブレーク戦を、勝敗が決するまで行なう。
4. 塁間の距離は25m(一般は27.43m）、投手板から本塁までは16.3m(一般は18.44m)とする。
5. 試合球は(公財)全日本軟式野球連盟公認ナガセケンコーM号球を使用する。
6. 参加申込書提出後の、選手の追加や背番号の変更は認めない。
7. ユニフォームは同型同色とし、企業名の入ったものは認めない。
背番号は0番～99番までとし、00番や3桁は認めない。監督は30番、主将は10番とする。
8. 捕手はマスク、ヘルメット、プロテクター、レガーズを装着し、打者、次打者、走者、ベースコーチはヘルメットの着用を義務付ける。
9. 金具付きスパイクの使用は禁止する。運動靴(ズック靴)でのプレイも同様とする。
10. 金属バットは全日本軟式野球連盟公認品(JSＢＢマーク入り)を使用すること。
11. ベンチは組み合わせ番号の若番を一塁側とする。
12. ベンチに入れる者は、登録されてユニフォームを着用した監督、コーチ、選手の他は、代表者 、マネージャー、記録員の3名とし、応援者の入室は禁止する。
13. 審判員の裁定について抗議できる者は、監督、主将、当該プレイヤーのうち1名とし、監督及び主将が不在の場合は、打順表交換時にその旨を打順表に記載し、本部・審判員の承認を得ること。
14. 降雨等による態度決定は、試合当日の午前7時とし、その対応は各チーム連絡者に伝える。雨天の場合でも球場が使用可能な場合は試合を行ない、時間を遅らせて行なうこともあるので、自己判断をせずに大会本部に確認すること。
15. 試合開始予定時間を経過しても、チームが会場に到着しない時は棄権とみなして処理する。
16. 組み合せ表にある試合開始時刻はあくまでも予定であり、第2試合以降のチームは予定時刻の60分前までに集合し、会場本部へ到着を届け出て、大会本部が用意する打順表を受け取ること。
17. 第1試合のチームは試合開始予定時刻の30分前までに、第2試合以降のチームは前試合の4回終了時に監督(又は主将)が打順表を会場本部に提出し、担当試合球審が立会いで攻守を決定する。
18. 第1試合に出場のチームは外野に限り練習に使用してもよい。その際にアップ用の服装でも良いが、打順表提出後は全員ユニフォームを着用していなければならない。
19. 第2試合以降に出場のチームは、前試合終了と同時にグラウンドに入り、終了あいさつの間にベンチ外の外野寄りに用具をまとめて置き、外野部分に限り練習に使用して良いがグラウンド整備等は10分間のインターバルを取っており、前試合終了から10分後には審判が『集合準備』のコールを行なう。
20. 降雨や発雷により、審判員が試合続行が不可能と判断した場合、5回を完了の場合はその得点で勝敗を決する。5回完了後の同点や、5回未完了の場合は第一日においては第二日への特別継続試合とする。第二日においては、その際に協議する。
21. 次試合のバッテリーは打順表交換後に球場内のブルペンを使用することができるが、試合中のベンチの承諾を要する。ブルペンで捕手が投球を受ける際には、マスク・プロテクター等の装具を装着しなければならない。
22. ベンチより外野部分に飛んだファールボールは、該当ベンチの選手が処理すること。
23. ベンチ内で携帯電話の通話を禁止する。また試合中の喫煙やガムを噛む行為を一切禁止する。
24. 試合終了後のグラウンド整備は、両チームより7～8人程度が出てトンボ・ブラシ等で行なう。